

SONY

nevion



VideolPath

メディアオーケストレーションプラットフォーム

sony.jp/nxl/



The Future Virtualization Real-time Deliver Content Freedom to Create Vision

VideolPathとは？

視聴デバイスの選択肢が増え、制作の効率化が求められる中、放送局・制作プロダクション・コンテンツクリエイターには、より一層の迅速な対応が求められています。

その実現のためには、柔軟でダイナミックかつ複雑なワークフローに対応できるメディアオーケストレーション（メディア統合管理）が必要となります。

VideolPath とは、ブロードキャスト運用、オーケストレーション、モニタリング機能を独自に組み合わせたメディアオーケストレーションプラットフォームです。これらの機能をすべて、または一部だけを自由に導入してお客様のワークフローに組み入れることができます。

このシステムは、ベンダーに依存せず、高度に拡張可能であるとともに、SDI / IP ネットワーク間の境界を越えたハイブリッドワークフローに対応しているため、IP ワークフローへの移行を円滑に実現してくれます。

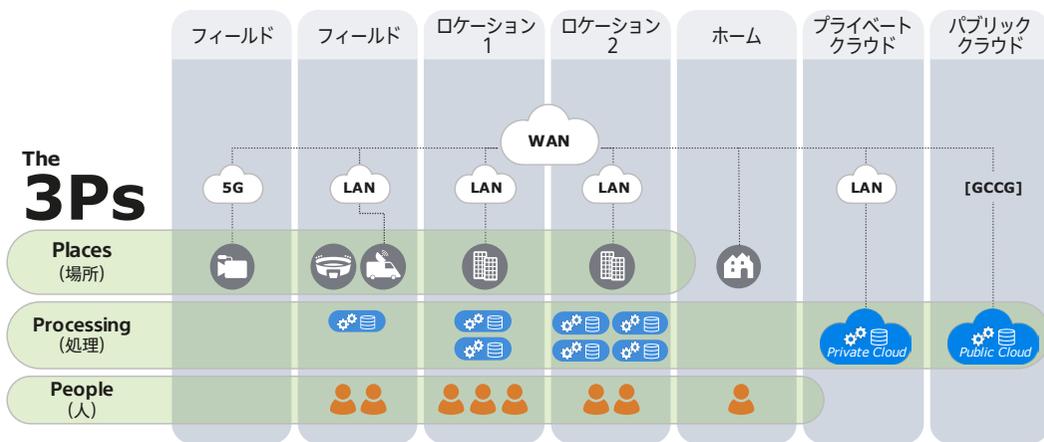
変わりゆくライブ制作

今後主流となる分散プロダクション

コンテンツ制作は、オンプレミスやクラウドに分散した制作リソースを必要に応じて組み合わせることで、場所や規模にとらわれないシステム構築へと着実に向かっています。こうした制作リソースを特徴づけるのが、以下の「3つのP」です。

- **Places (場所)** : スタジオ、スタジオサブ、中継車、ライブ会場など
- **Processing (処理)** : ミキサー、収録/再生、ビデオ/オーディオ処理などの、メディア信号を操作できるあらゆるツール
- **People (人)** : 制作スタッフのことで、ライブ制作において最も重要なリソース

豊富なソフトウェアライセンスの中から必要に応じて機能をインストールすることで、用途に合わせたライブ制作システムを構築可能です。



NETWORKED LIVE

Networked Live (ネットワークドライブ) は、オンプレミス/クラウドに点在する制作リソースをハイブリッドに活用することで、より効率的なライブ制作をサポートするソリューションです。場所にとらわれないシステム構築や、高画質・低ビットレート・低遅延の映像伝送に加え、ネットワークに接続されたカメラなどの機材の統合管理も可能です。

ソニーとNevion (ネヴィオン) 両社の経験と専門知識に支えられた Networked Live は3つの要素に基づいています。

- ネットワークとリソースの統合管理
- メディア伝送
- オンプレミス・クラウドのハイブリッド運用

メディアオーケストレーションプラットフォーム「VideolPath」は、Networked Live の要素の1つである「ネットワークとリソースの統合管理」の主要コンポーネントです。



VideolPathの用途は？

LAN / WAN / 5G / クラウドをつなげたり、IP と SDI 双方に対応することができる VideolPath は、放送局、中継車、大規模イベント、拠点間伝送、リモートプロダクション、分散プロダクションなど、さまざまな用途に使用できます。

放送局内および中継車 (LAN)

放送局内および中継車内において、VideolPath は、ライブ制作の準備・実行のための業務ワークフローを支援します。高度なネットワークの経路制御や放送機器の制御、GPIO / タリ、リソーススケジューリング、ユーザーによってカスタム可能な UI が含まれます。独立したシステム単体での動作を担保しつつ中継車のリソースを放送局側の IP 設備に割り当てるなど柔軟なリソース共有を実現します。

拠点間伝送 (WAN)

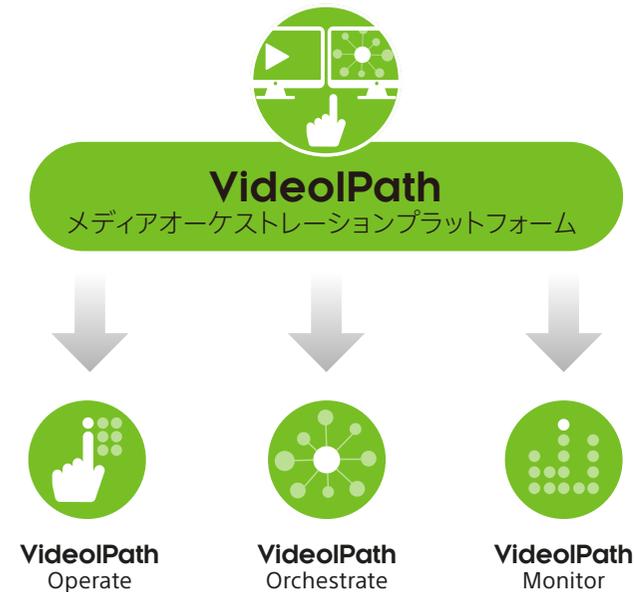
VideolPath は、WAN ネットワークを介してメディア機器（エンコーダー／デコーダー）を接続することができます。WAN 環境で一般的に使用される保護機構のサポート、ならびにフォーマット変換や LAN / WAN ネットワーク間（非圧縮 / 圧縮環境間）の橋渡しをはじめとした、各種圧縮フォーマット間のやり取りをサポートします。

リモートプロダクション (LAN / WAN)

リモートプロダクションを実現するには、放送局内・中継車システムで必要な機能と拠点間伝送に必要な機能をすべて活用することが大切です。VideolPath ではそれらすべての機能を所持しているため、リモート先の機器をあたかもオンプレミスにあるかのように利用することができ、効率的なリモートプロダクションを実現します。

クラウド

ライブ制作では、プライベート / パブリッククラウドの処理・伝送が重要になっており、VideolPath には、オンプレミスとクラウドのリソースをスムーズにつなげる機能があります。プロセッシングエンジンを分散して配置したり、オンプレミス - クラウド間 / クラウド - オンプレミス間ルーティングをサポートする機能があります。急速に進化しているクラウドという領域で、VideolPath は、将来性のあるオンプレミス / クラウドのハイブリッドワークフローへの道となります。





なぜVideolPathなのか？

メディア伝送がIP技術に移行し、またワークフローが物理的接続性ではなく論理的接続性に基づいて作られるようになるにつれ、管理レイヤーとネットワークの関係の緊密化、そして放送業務の改革が求められます。

VideolPathには、LAN、WAN、5G、クラウドでIP / IT技術をフル活用するために設計された統合管理 / 放送業務 / モニタリング機能が独自に組み込まれたメディアオーケストレーションプラットフォームです。ユーザーにとって複雑なインフラに関する技術を気にせずに運用いただけます。

メリット

VideolPathは、ライブ制作に以下のメリットをもたらします。

ワークフローの変革

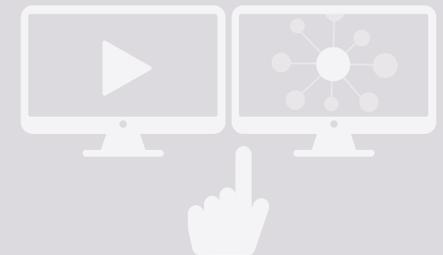
- シンプル化された機器制御
- 簡単な接続管理
- 既存のワークフローに対応
- 社内 / リモート / クラウドプロダクションの統合により新たな効率的ワークフローを実現
- SDI から IP への着実な移行をサポート

現在と未来への投資

- 実績のあるプラットフォーム
- ベンダーに依存しない
- 標準規格への準拠
- SDI / IP の両方に対応
- 複数のビデオ / オーディオフォーマットに対応
- 高い拡張性

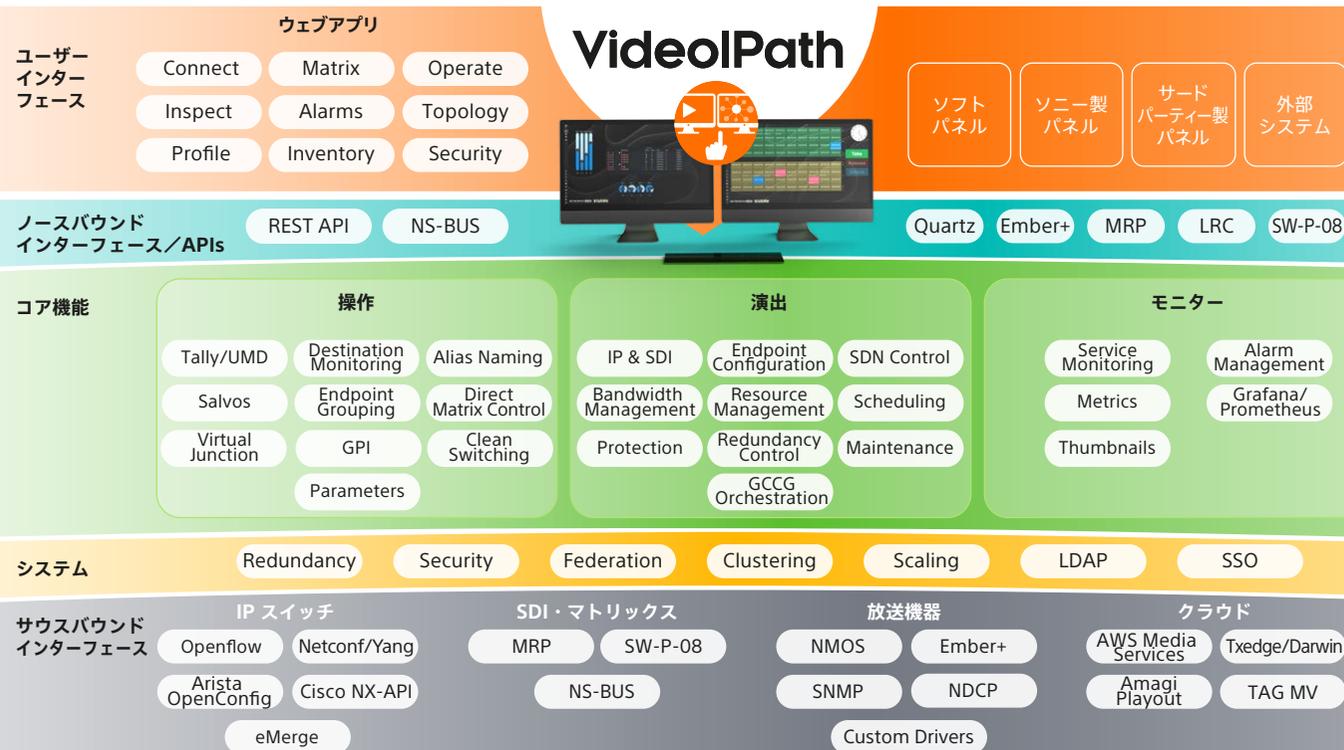
リソースの最適化

- 分散プロダクションによるリソース共有
- ネットワーク上の負荷分散と帯域確保
- ルーティングの明確化によりオーバープロビジョニングを回避
- 先進的なルーティングにより適切なリソースを確保



特長および機能

VideolPath は、放送業務、ベンダーに依存しない統合管理、
モニタリング機能を搭載したメディアオーケストレーションプラットフォームです。



Networked Live との連携

VideolPath と、Networked Live 製品は密に連携しています。
これにより、連携にかかる費用と、VideolPath 導入にかかる時間を節約できます。

同時に、VideolPath は業界標準に基づいているため、他のベンダーの製品とも連携しており、選択の自由があります。

VideolPath Operate

放送業務の再解釈

ブロードキャストコントロールにおいて豊富な経験があるソニーの技術を生かした VideolPath は、IP ベースの放送設備（スタジオサブ・中継車など）に必要な機能を提供するために進化し続けています。

VideolPath のオペレート機能は、オーケストレーション機能と組み合わせるか、単独で使用できます。IP ベースのインフラの利点を最大限に生かした放送業務を実現します。

カスタマイズ可能なユーザーインターフェース

VideolPath には、放送業務に適したカスタマイズ可能なユーザーインターフェース（アプリ）を実装しています。

- **Panel** - ウィジェットによるソフトウェア制御パネルインターフェース
- **Matrix** - 論理ルーティングを表示可能なマトリクス型インターフェース
- **Connect Studio** - スケジュールによる結線または即時結線を選択可能なルーティングインターフェース



コントロールパネルの選択

VideolPath は、本システム独自のカスタマイズ可能なソフトパネル（タッチパネルを使用）や、ソニー／他のベンダー製のハードウェアパネルなど、さまざまなパネルと一緒に使用することができます。これにより、SDI 環境用パネルの機能を拡張して新しい IP ネットワークの制御用に使用する（その結果、オペレーターの IP 化がスムーズになる）など、ユーザーが自身の好みの方法でリソースを制御することができます。



タリー / UMD

VideolPath は、タリーマスターになることも、外部のタリーマスターからタリー情報を取得することもできます。また、同時に複数のタリーシステムにも対応できます。他のシステムとタリー情報を交換するため TSLv5 に対応しています。

ソースとデスティネーションで同時に複数のタリーの色に対応できます。割り出されたタリーの色は、デスティネーションからソース、さらにそのソースに接続されているすべてのデスティネーションにも伝送されます。

汎用インターフェース (GPI)

VideolPath は複数の GPIO を活用したワークフローに対応しています。GPI の入力と出力の間には論理処理を行うブロックを追加することが可能です。

論理演算は AND、OR、XOR、インバーター、ラッチに対応しており、高度な GPI ワークフローを実現します。

パラメーターコントロール

VideolPath では、標準プロトコルまたは、ドライバーがサポートするカスタムプロトコルを使用してプロダクションデバイスのパラメーターを制御することができます。オペレーターは、この機能を使用して、セットアップ時およびライブ制作中に関連パラメーター値をその場ですぐに調整することができます。

パネルアプリは、スライダー、およびトグルスイッチのようなウィジェットに対応しており、ノコードでパラメーターを制御することが可能です。パラメーター制御ウィジェットは、接続管理、サービスリスト、サムネイルによるモニタリングなどのウィジェットと組み合わせて使用でき、ワークフロー全体をサポートします。

Virtual Junction

IP システムにおいて機器の物理的な追加には設定の手間がかかります。

また、追加した機器の映像を複数のモニター / スイッチャーなどに入力したい場合は、各入力に対して追加した機器の端子を一つ一つ結線する必要があり、利用開始までに時間がかかります。

VideolPath では、Virtual Junction 機能によって仮想ソース端子と仮想デスティネーション端子を作成することで、それらの手間を短縮することができます。仮想デスティネーション端子に実機器のソース端子を結線することで、仮想ソース端子を作り出します。そして、作り出された仮想ソース端子を実機器のデスティネーション端子に結線することで実機器のソース端子が結線されます。

この動きにより、複数機器に同じ仮想ソース端子を結線しておく、1つの仮想デスティネーションに対してのソース端子の結線を切り替えるだけで瞬時に複数機器の素材を切り替えることが可能になります。これにより、運用に応じて追加したカメラをシステムの1台目のカメラとして利用したり、故障した機器の入れ替えなどを容易にします。

エンドポイントのグループ化

VideolPath には、エンドポイントをソースグループまたはデスティネーショングループにグループ化する機能があります (例えば、複数のビデオおよびオーディオ信号の組合せ)。これらのグループ同士の連結では、VideolPath は対応するエンドポイント (種類、形式など) 同士をエンドポイントのタグ付けに基づいてマッチングさせるので、よりスマートで迅速な連結が可能になります。

例えば、このグループ化コンセプトは、SMPTE ST 2110 接続の確立に有用で、オペレーターは、各エッセンスのストリームを意識する必要がなくなります。VideolPath のグループ化コンセプトは非常に柔軟であり、任意に組み合わせた個々のエンドポイントをグループ化できるため、SMPTE ST 2110 以外のワークフローにも対応することができます。

その他のブロードキャストコントローラー機能

VideolPath には、IP 環境または IP / SDI 混在環境での動作に適した、以下のようなブロードキャストコントローラー機能が搭載されています。

- Matrix での素材の結線
- Salvos (マクロ)
- デスティネーションモニター
- 端子の名称管理 (エイリアスネーム) など

VideolPath Orchestrate

市場を牽引する IPメディアネットワーク向け オーケストレーション

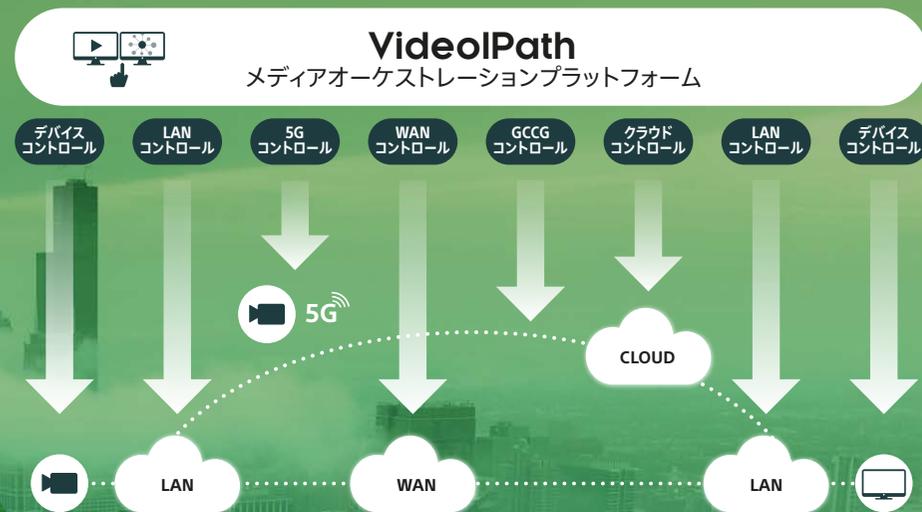
VideolPath は、国際的な、または国内の拠点間伝送ネットワーク（WAN および 5G）から放送局、中継車、（LAN、SDI / IP の両方）などのさまざまなネットワークでの接続管理（SDN および IGMP）を行うための包括的オーケストレーションシステムです。プライベート / パブリッククラウド上にデプロイされたサービスの入出力のフロー制御またはルーティングをすることも可能です。

オーケストレーション機能は、単独で、またはオペレーション機能と組み合わせて使用することができます。VideolPath は、IP インフラ全体のエンドツーエンドのビデオ、オーディオ、データサービスを管理します。メディアノードは NMOS またはベンダー固有の API を使用して管理される一方で、ストリームは SDN（または IGMP / PIM）を使用して基盤となる IP インフラ全体にわたってルーティングされます。数千ノードまで拡張可能であるとともに、ネットワーク全体に数十万のメディアストリームを伝送可能であることが実証されています。

接続管理

これまでの制作ワークフローでは1つの信号を伝送するケーブルで接続されており、機器の入出力は「物理的な」接続で決まりました。しかし、IP を使用することで伝送ケーブル1本の中に複数の信号を双方向で伝送できるようになります。そのため、機器の入出力はソフトウェア上で管理する「論理的な」接続で決定されます。複数の信号を伝送できるようにするため帯域幅の管理が大切です。

IP ベースまたは IP/SDI 混在のシステムでは論理的なソースとデスティネーション間を接続する作業を簡素化するための接続管理ツールが必要であり、VideolPath がそのツールです。接続を確立してネットワークリソースを効率的に使用するのは複雑な作業のように見えますが、VideolPath を使用することで、オペレーターの視点から見ると、SDI ルーターのクロスポイントを設定するのと同じくらい簡単な作業です。



SDN 制御

VideolPath は、あらゆるネットワークポロジ（一般的なスパイン / リーフ構成を含む）において高度なルーティングを行います。これにより、メディアフローの効率的な制御ができるため、IP インフラを常に最適な形で活用することができます。

複数の SDN 制御プロトコルに対応しているため、主要なスイッチベンダー（例えば、Cisco、Arista、Nvidia）の製品に適したルーティング設定ができます。これにより、放送に必要な性能を満たすことができ、また IP インフラのメンテナンスとトラブルシューティングも簡素化できます。

クラウドオーケストレーション

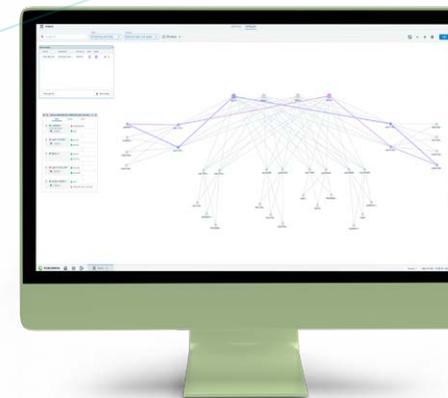
ハイブリッドプロダクションには、オンプレミスのシステムとクラウド間でライブビデオ信号、オーディオ信号、データ信号をシームレスに調整するためのソリューションが必要になります。

VideolPath は、高度なネットワークオーケストレーションとクラウドの統合の組み合わせが可能です。

オンプレミスとクラウド間のメディア信号の伝送を容易にするだけでなく、クラウド内の信号と処理リソースを効率的に管理することもできます。

AWS 社の「AWS Elemental MediaConnect」や、「AWS Elemental MediaLive」などといった主要なサービスとのインターフェースだけでなく、TAG Video Systems 社のクラウドベースマルチビューワー、Amagi 社のプレイアウトサービス「CLOUDPORT」などとの連携も提供します。

メディアフローに潜在する複雑さを感じさせず、ユーザーがオンプレミスとクラウドの両方の制作リソースを最適な方法で活用できるようにします。



リソースおよび帯域幅の管理

メディアリソース（例えば、エンコーダー、デコーダー、オーディオプロセッサなど）および、帯域幅やポートなどのネットワークリソースを管理します。既存の使用状況および使用計画に基づいて、信号をルーティングします。

スケジューリング

VideolPath には、スケジューリング機能が含まれており、リソースおよび帯域幅管理と連携して動作します。

スケジューラーは、定期的なサービスと 1 回限りのサービスの両方に対応しています。

プロテクション

VideolPath には、必要不可欠なフローの接続を保証する複数の保護機能があります。シンプルな SMPTE ST 2022-7 や、VideolPath GUI を使って 1 つの回線によってデュアルセクター、パス、レシーバーを設定できる、高性能なデュアルエンコーダー保護機能などがあります。

冗長性制御

ネットワークやエッジで障害が発生した場合にサービスを高度に再ルーティングできる冗長コントローラーが含まれています。この冗長コントローラーの動作は、さまざまな冗長性シナリオに合わせてカスタマイズ可能です。

メンテナンス

リンク、デバイス、モジュール、ポートのメンテナンスのスケジュール設定ができます。VideolPath には、メンテナンスの影響を受けるサービスについてユーザーに通知し、それらのソースを再ルーティングするオプションもあります。



VideolPath

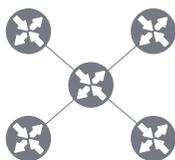
メディアオーケストレーションプラットフォーム

さまざまなネットワークポロジ

..... IP / ハイブリッド (IP / SDI)



Spine-leaf



Star



Mesh



SDI

マルチキャストおよび VLAN の管理

フローの結線時に、あらかじめ指定しておいたマルチキャストアドレス・VLAN の範囲の中から自動的に割り当てる機能を備えています。結線が終了すると、割り当てられたマルチキャストまたは VLAN が解放され、他のサービスで再利用できるようになります。この機能により、アドレスの割り当てにおける人的ミスを防ぐことができ、アドレスの使用を最適化できます。

NMOS

NMOS RDS (Registration and Discovery Server) が組み込まれており、NMOS IS-04 デバイスを簡単に搭載することができます。外部のサードパーティー NMOS レジストリも使用可能です。

NMOS IS-05 は、VideolPath によるメディアデバイスの接続管理に使用されています。必要に応じて、デバイス固有のドライバーと組み合わせて特定の機能を利用できます。NMOS に他の API を組み入れて柔軟に統合することもできます。

VideolPath は、オーケストレーションのあらゆるニーズに対応するエンドツーエンド機能を提供します。

VideolPath
エンドツーエンド機能で
お客様のオーケストレーション
(統合管理)
ニーズに応えます。

VideolPathで提供するエンドツーエンド機能

- マルチキャストルーティング
- 帯域幅管理
- リンクロードバランシング
- スパイン/リーフ型トポロジー
- フローポリシング (フローのイングレス帯域幅制限)
- アラーム管理
- PIM/IGMPネットワークとの共存
- 任意のネットワークトポロジー (パープル構成のスパイン/リーフ型を含む)
- エンドツーエンドサービスのモニタリング (アラームの対象メディアサービスへの紐づけ)
- マルチベンダーネットワーク (Cisco、Arista、Nvidia、Huawei、Nevion)
- スケジューリング
- デバイスとリンクのメンテナンス (停電と重要フローへの対策)
- IPとSDIのハイブリッド運用のサポート (IP / SDIのエンドツーエンドルーティング)
- 自動マルチキャスト割り当て (セクターに対し静的アドレスを設定しない)
- マルチキャストNATサポート
- データサービストンネリング (VLANを使用したネットワーク上での双方向ルーティング)
- "Two Step"クリーンスイッチング (倍の帯域幅を使用しない)
- メディアを意識した再ルーティング (重要フローの再ルーティングを優先)
- ルーティング制約 (異なるトラフィックプロファイルを特定の方法で操作)



VideolPath Monitor

IPシステムの統合モニタリング

IP 技術を利用することにより、新たなプロダクション環境をより柔軟に確立できるようになります。この柔軟性により、放送局は利用できるリソースを十分に活用し、より効率的に作業することができますが、同時に複雑さも増してしまいます。

VideolPath は、この複雑さに対処し、問題を見越して予防策を講じるとともに、トラブルシューティングをサポートして、システムにおける問題の根本原因と、それが現在進行中の運用にどのように影響するのかを素早く特定します。

アラーム管理

デバイスのアラーム監視と VideolPath 自身のサービスの監視・制御を組み合わせた統合監視を実現します。そのため、複数の監視システムを参照せずにシステムの動作状態を正確に把握することができます。対応デバイスのすべての未解決のアラームを追跡・解決済みのアラームの保持にも対応します。

VideolPath のカスタム可能なソフトウェアパネル上に SNMP 監視ウィジェットを追加することで、利用ユーザーごとに監視したい項目だけ確認できるパネルを作成することもできます。

ネットワークスイッチの動作状態を収集し、ネットワークトポロジー上のどこに問題が発生したか、どのように再結線したかを表示する機能も実装しています。機器の監視だけでなくネットワークの高度な監視も同時に実現します。

Grafana / Prometheus の統合

Grafana および Prometheus との統合が可能であり、システム自体およびシステムによって管理されるサービスの両方に関する収集データを外部で分析することができます。

この統合により、お客様は VideolPath や他のシステムのデータを組み合わせて、カスタマイズされた Grafana ダッシュボードを作成できます。Nevion 社では、ダッシュボードの作成を支援するプロフェッショナルサービスも提供しています。



人間工学に基づいた ユーザーインターフェース

VideolPath の主な特長の一つが、ユーザーにとってのアクセスのしやすさと使いやすさです。

VideolPath は、人間工学に基づいた HTML5 ベースの Web インターフェースを提供し、このインターフェースは「アプリ」と呼ばれるさまざまなモジュールで構成されています。各アプリは、それぞれ特定の機能に特化しています。

すべてのアプリは、見た目と操作感が一貫しており、高い操作性を実現します。



主要な「アプリ」

以下のアプリが VideolPath に搭載されています。



Connect Studio

接続のスケジュール設定、使用中／使用予定の接続回線の表示を含めた、エンドポイントおよびグループの接続ができます。



Matrix

マトリクス指向のインターフェースを使用して複数のエンドポイントおよびグループを接続することができます。VideolPath では、自動で作成されるマトリクスだけでなく、ユーザーによって表示されるリソースが異なるマトリクスを作成することができます。



Panel

ウィジェットを利用し、ノーコードでソフトウェアパネルを構築できるアプリです。モニタリング、XPT 切り替え、パラメーター制御など、利用するオペレーター専用のソフトウェアパネルを簡単に作成することが可能です。



Alarms

現在のアラーム、サービスに影響を与えるアラーム、過去のアラームなどを表示するアラームベースのユーザーインターフェースです。



Inspect

システムのインフラ上で発生した問題の詳細を深く掘り下げて調査し、サービスに影響を与える問題を特定する機能と組み合わせモニタリングを可能にする高性能モニタリングアプリです。



Inventory

システムに実装されているデバイスを管理します。サポートされているデバイスでは、バックアップ／復元およびソフトウェアのアップグレードが可能です。



Topology

システムの根底となるネットワークポロジを管理するとともに、システムに追加されたメディアデバイスのアドレスやプロファイルなどの設定も行います。



Profile

システムによって接続されるメディアタイプごとにプロファイルを割り当てます。このアプリ上で、ビデオ / オーディオ / メタデータなどの信号タイプやメディアの非圧縮 / 圧縮のビットレートごとに異なるプロファイルを作成・カスタマイズします。このプロファイルを各信号に設定することで、適切な信号結線を実現します。



Security

本アプリケーションを利用することで、管理者が各ログインユーザーに対するアクセス権や利用できる機能（ロール）を細かく定義できます。これにより、複数設備を統合的に管理しつつ、ユーザー間のリソースのセキュリティを担保することが可能です。



Import/Export

管理者がシステムと大量のデータをインポートおよびエクスポートするためのツールです。



Maintenance

システムリソースのメンテナンスの間隔を定義し、アップグレードや他のサービスに影響を与える可能性のあるアクティビティを計画的に実行できるようになります。

IT技術に親和性の高いプラットフォーム およびインターフェース

ホスティングプラットフォーム

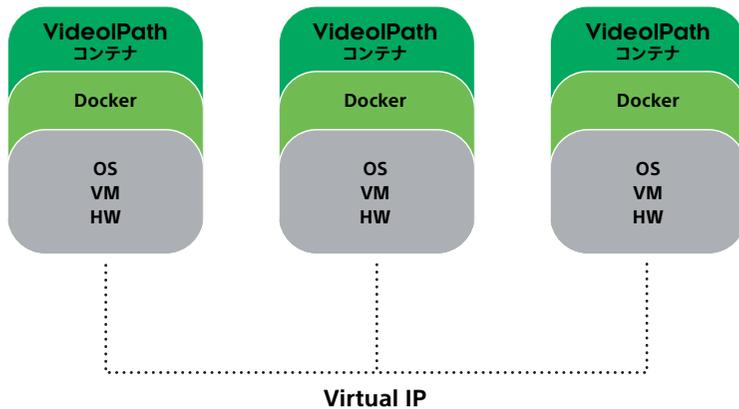
VideolPath は、一般的な COTS サーバー上、またはクラウド上で動作可能です。主要なクラウドサービスおよびハイパーバイザー上へのデプロイに対応しています。

VideolPath は、有料の OS をお求めのお客様には Red Hat Enterprise Linux 上に、無料の代替 OS をお探しのお客様には Rocky Linux 上にそれぞれデプロイすることができます。

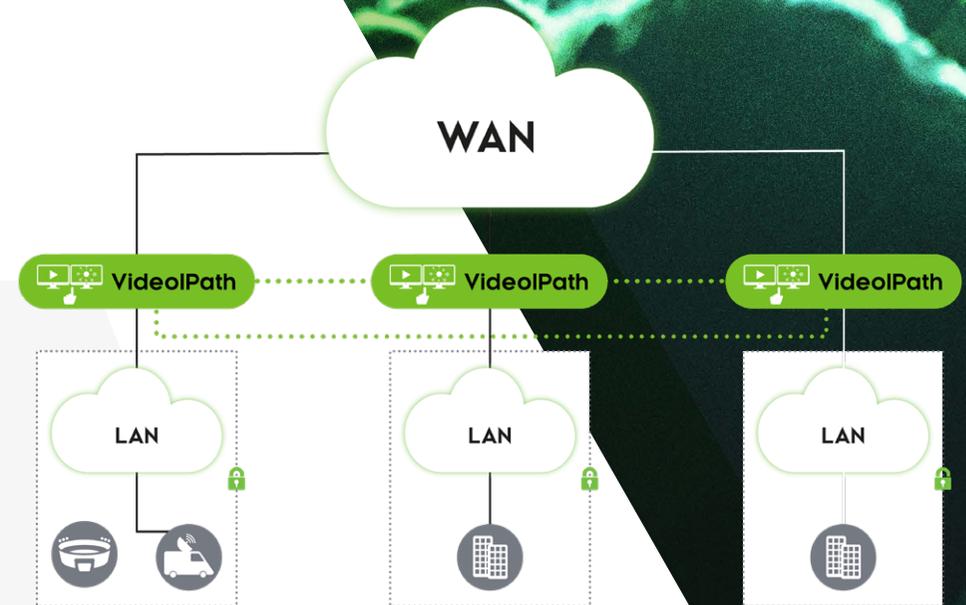
クラスタリング

VideolPath はクラスター構成によるシステムの冗長に対応しています。そのため、サーバー障害への耐性を向上させることが可能です。

Docker、HAProxy、Zookeeper といった必要なソフトウェアコンポーネントはすべて標準でインストールされます。



フェデレーション
機能により、
VideolPath の
拡張性も
新たな高みに
到達できます



フェデレーション

フェデレーションとは、異なる場所で独立して動く VideolPath 間を接続し、共同作業をするための VideolPath 独自の機能です。

各システムは自律的に動作してそれぞれ個別にリソースを管理するため、フェデレーション内の一部で問題が発生した場合でも、他のシステムは機能し続けます。

これにより、各設備のリソースの共有を容易にするとともに、独立性を向上させることができます。

セキュリティ

VideolPath ソフトウェアは、セキュアコーディングの OWASP ガイドラインに従って安全にコーディングが行われるように設計されています。ソフトウェアとサードパーティー製ライブラリについては、脆弱性がないかチェックするために継続的にスキャンされています。また、セキュリティ修正プログラムについては、重要でないものは次のリリースに組み込まれ、重要なものはすぐに提供されます。このソフトウェアは、EBU の推奨事項にも準拠しています。

VideolPath クラスター内／フェデレーションシステム間の通信、他のシステムやユーザーインターフェースへのノースバウンド通信、および機器へのサウスバウンド通信など、すべての外部システム通信は、TLS などを使用して暗号化することができます。

ロールベースのアクセス制御

VideolPath がメディアネットワークの制御において中心的な役割を果たしているため、セキュリティは極めて重要です。Security アプリを利用することで、管理者が各ログインユーザーに対するアクセス権や利用できる機能（ロール）を細かく定義できます。これにより、複数設備を統合的に管理しつつ、ユーザー間のリソースのセキュリティを担保することが可能です。



マルチテナント

セキュリティ／ロールベースアクセスの重要な側面は、特定の部門や外部組織に限定してアクセス権を提供できることです。この機能を使うと、例えば放送局と一緒に仕事をしているプロダクションに特定の制作機能へのアクセスを提供できるようになります。これにより、通信サービスプロバイダーが複数のメディア企業にネットワークの一部を制御させることも可能になります。

ノースバウンド API

独自の API と NS-BUS（ソニー製機器用）、Ember+、MRP などのインターフェースをサポートしています。既存の使い慣れたユーザーインターフェースやハードパネルを利用いただけます。

サウスバウンド API

ネットワーク、放送機器およびクラウドサービスに接続するためのさまざまなサウスバウンド API に対応しています。Arista、Cisco、Nvidia (Mellanox) などの主要ベンダーのスイッチおよび、さまざまなベンダーのメディアノードを組み合わせた制御を実現します。さらに、ソニーやその他のベンダーのカメラ、ビデオおよびオーディオミキサーなどの制作機器を制御することも可能です。

ソフトウェアの更新

1年に1回の長期サポート (LTS) リリースがあります。セキュリティ更新／修正プログラムは、LTS のリリース後 3 年間、LTS バージョンが廃止されるまで提供されます。

さらに、Nevion 社は四半期ごとに PRE リリースを提供します。これらのリリースは、実装段階のお客様や現在の LTS では利用できない新機能にアクセスしたいお客様を対象としています。

すべての更新プログラムは、MAINT ライセンスを購入いただいたお客様に対して提供されます。

VideolPath は、
番組制作・IP インフラを
止めないシステムを
提供します

サービス

製品またはプロジェクトの納入の前後にかかわらず、幅広いサービスポートフォリオを提供します。

VideolPath に関連する Neviion のサービスには以下のものが含まれます。

- VideolPath のセットアップとインストール
- VideolPath 構成 (ネットワーク、トポロジー、ノード、エンドポイント、NAT、ユーザーなど)
- サードパーティ製デバイスの対応
- トレーニング
- システムテスト
- モニタリングおよびレポート
- システムの最適化
- ソフトウェアアップグレード対応

他にも多くのサービスがあります。

プロフェッショナルサービス



コンサルティングおよび研修サービス

デザイン
サービス

プロジェクト
マネジメント

ワークショップ

トレーニング

デリバリーサービス

インストール、構成、統合

サードパーティ
インテグレーション

稼働開始サポート

テストと
トラブルシューティング

カスタマイズサービス

カスタマイズされた
構成ツール

カスタマイズされた
イベントロジック

カスタマイズされた
モニタリング
ダッシュボード

システムの最適化

自動テストと
レポート

カスタマーケア



サポートサービス

プレミアムサポート

サードパーティ
サポート

アドバンス
リプレースメント

運用および
監視サービス

24時間年中無休の
開発者アクセス



安全に関する注意

商品を安全に使うため、使用前に必ず「取扱説明書」をよくお読みください。

カタログ上の注意 ●仕様および外観は、改良のため予告なく変更されることがあります ●カタログと実際の色とは印刷の関係で、多少異なる場合もあります **商標について** ●「ソニー」および「SONY」、ならびにソニーの商品名、サービス名およびロゴマークは、ソニーグループ株式会社またはその関連会社の登録商標または商標です。その他の商品名、サービス名、会社名またはロゴマークは、各社の商標、登録商標もしくは商号です。なお、本文中ではTM、®マークは明記していません

法人のお客様向け
ソニー ウェブサイト

sony.jp/pro/



ソニーマーケティング株式会社

〒108-0075 東京都港区港南1-7-1

購入に関するお問い合わせ

業務用商品購入相談窓口

フリーダイヤル ☎ 0120-580-730

受付時間 9:00～18:00 (土・日・祝日、および弊社休業日は除く)

YG-1 (84981413)

製品に関するお問い合わせ(使い方、故障診断など)

フリーダイヤル ☎ 0120-788-333 携帯電話・PHS・一部のIP電話からは050-3754-9550

受付時間 9:00～18:00 (土・日・祝日、および弊社休業日は除く)

2025.2

カタログ記載内容2025年2月現在